地域の人々が始めた斎王まつり

明和町を代表するまつりといえば、斎王まつりと答える人が多いのではないでしょうか。斎王まつりは、町内外から例年3万人ほどの人が訪れ、令和6年度で 40 回を迎えています。

そんな大きなイベントが始まったのは、昭和 58 年（1983）3 月 28 日のこと。「このままでは斎王さんは浮かばれぬ。幼くして都を離れ、人身御供同然の斎王さんの中には、この地に骨を埋めた人も少なくない。女性は女性同士、せめて地元に住む私たちだけでも弔っていきたい」と地元斎宮婦人会の方々が、斎王の鎮魂と斎宮跡の啓発を目的として行われました。一番最初の斎王まつりは、斎宮跡の中でも三重県により最初に公園整備がされた斎王の森の東側で行われました。2年目からは、地元住民、自治会、文化団体などによって斎王まつり実行委員会ができ、現在もまつりの運営を行っています。3 回目からは、斎王役が選ばれ、斎王が都から斎宮にやってきた斎王群行の様子が再現されるようになりました。

町の一大行事である斎王まつりは、地元の人びとの斎王さんへの想いから始まり、今も地域の人びとによって運営されています。ぜひ、斎王まつりに参加し、まつりを支えてきた地域の人びとの想いを受け継いでいきましょう。

多くの人でにぎわう第 40 回斎王まつり（令和6年度）

斎王の森東側で行われた第1回斎王まつり

キーワード：斎宮、斎王、斎王まつり